

議員提出議案「未来の岐阜市について考えよう」 発言要旨

第13回岐阜市子ども議会 平成28年7月31日（日）開催

- まちなか博士を増やした方がよい。岐阜市についてより高度に話せる人が増えると岐阜市のイメージアップにつながる。
- 岐阜市をごみのない町にしたい。現状では看板やポスターがあっても、ポイ捨てする人が多い。看板やポスターがあったら、ごみを持ち帰るようにしてほしい。
- 美しい長良川を未来に残していきたい。私たちの生活に不可欠な飲み水に岐阜市は恵まれているので、未来に生きる人たちにも飲んでほしい。
- 長良川の鶺鴒をこれらも引き継いで、いつまでも岐阜市の観光の中心であってほしい。
- 岐阜市の魅力を広げたい。岐阜市にはおいしい郷土料理、金華山、美しい長良川があるので、その魅力を伝えたい。高山市などと比べると岐阜市はニュースなどでとりあげられることが少ない。まず、私たちが岐阜市の魅力を知るために、給食に郷土料理を出した方がよい。
- 岐阜市の人をもっと岐阜市産の食べ物を食べるとよい。地元なので安心して食べられる。地元の農家の人に収入が入ることにもつながり、地元の特産品にもなる。もっと岐阜市の人に食べてもらうために、QRコードを商品につけて、生産の様子がわかるようにした方がよい。
- 岐阜市が活気あふれる街になってほしい。外国人観光客にも訪れてもらうために、信長公450プロジェクトを外国人観光客に対してもPRできるとよい。
- 子どもたちが興味のあることや、得意なことを伸ばしていける教育に力を入れた方がよい。基本的な勉強をしっかりとやったうえで、自分が決めたテーマをとことん追求して「博士」になるような学習ができるとよい。そのために、メディアコスモス、科学館、博物館などを利用できるといい。
- 鶺鴒を世界遺産にして、世界の人にもっと知ってもらいたい。そのために、

鵜匠さんの人数を増やして鵜飼の魅力を広げたらいい。鵜匠さんになりたい人が集まって勉強できる学校を造るとよい。また、男性だけでなく女性の鵜匠さんも増えるとよい。

○岐阜市が障がい者を支える気持ちのある町になってほしい。自分の弟が障がいをもっていて、とても切りかえが遅い。でも、そこで手伝うのではなく、遅いとわかっているからこそ、いつも10分前には行動している。それは、大人になった弟が自分で考えて生きていけるようにしたいから。岐阜市も障がいのあるなしに関わらず、困っている人がいたら支え合えるといい。

○岐阜市の魅力をアップし、遠くからの観光客や外国人観光客に岐阜市に来てほしい。そのために、①鵜匠体験、②毎週花火を見る、③路面電車の復活、を提案する。

○未来の岐阜市は地域の人との関わりを大切にできるとよい。たとえば、地域の人が、観光客へ岐阜市の印象をよくするために、ごみをなくすなどの活動をする。このように地域の人が積極的に岐阜市の魅力を伝えていけるとよい。

○一年を通して「岐阜に行きたい」「鮎菓子を食いたい」と思ってもらえる魅力ある岐阜市にしたい。鵜飼の時期ではない時には、鵜飼ミュージアムでの紹介だけでなく、3Dシアターやお客さん自身が鵜を操る体験参加型のプログラムを考えていきたい。また、鮎菓子の味を岐阜の特産物を使ったものにしたたり、洋菓子風のアレンジもよい。

○犯罪・事故がない町がよい。自分は大丈夫、少しぐらいなら、という甘い考えを持っている人がいる。周りの人が注意したり止めてくれる町がいい。

○未来の岐阜市のために、長良川の鮎がいなくならないようにしたい。貴重な鮎を守っていくことで、岐阜市が有名になって観光客も増えると思う。